

～ 住宅着工から完成までの式典用語 ～

- ❖ 建物の建設工事では、工事が安全に滞りなく行われ、また、建物（施主）の末永い繁栄を願う祭事が古くから行われてきました。建物の工事進行に合わせて行う式典（建築儀式）については、宗教や地域性、また、建設施工の工務店や神主などによってやり方が異なりますし、実際に最近では実施しない施主も増えてきています。ここでは、日本で行うことが多い神式の一般的なものをご紹介します。

【地鎮祭】

地鎮祭は着工前、すなわち基礎工事などを始める前に敷地の守護神をまつり祓い清め、敷地の安定と工事の安全を祈願し行われます。一般的に建設地の神社の神主にお願いします。

時 大安・友引など吉日の午前中を選びます。（少なくとも1ヶ月～1週間位前には日時を決定しておく）式に要する時間は30分～60分位です。

場所 これから建てようとする敷地で行います。

参加者 施主とその家族、設計管理者・施工者、ほか工事関係者。（住宅工事の場合は平服が多く、工事関係者は作業服姿の出席が普通）

用意 祭事用具は神主が用意してくれます。施主は祭壇のお供え物と直会のお酒、おつまみを用意します。工務店によってはお供え物の用意もしてくれるところもあります。また、神主によってお供え物なども異なります。

地鎮祭でのお供え物

1. お米
2. 御神酒
3. 海の幸（鯛又は尾頭付きの鮮魚、昆布、するめなど）
4. 山・畑の幸（くだもの、大根や人参などの根菜類）
5. 塩

費用 神主に謝礼として、2～5万円位を「玉串料」と書いたのし袋に入れ、施主が直接渡します。

地鎮祭式典の流れ 式そのものは神主の指示で行われます。

1. 修祓の儀
お祓いをします。
2. 降神の儀
式場に神を迎える儀式です。
3. 献饌の儀
神饌（酒、お米他のお供え物）を神の前にお供えする儀式です。実際にはお神酒を入れた瓶子のふたを取るだけです。
4. 祝詞（のりと）奏上
土地と工事、建物の安全を願い、神主が祝詞を読み上げます。参加者は頭を下げて願い捧げます。



5. 四方祓いの儀
神主がお米、塩、白紙を敷地の中央と四方にまきます。
6. 鍬（くわ）入れ
着工の意味を込めて神主から施主、施工者が鍬（スコップ）を受けて、盛ってある砂を3回掘るしぐさをします。
7. 玉串奉奠（たまぐしほうてん）
玉串（さかきの枝に紙垂（しで）をつけたもの）を神前に捧げる儀式です。
8. 撤饌の儀
神饌を下げる儀式です。
実際にはお神酒を入れた瓶子のふたを閉めるだけです。
9. 昇神の儀
お迎えした神にお帰りしていただく儀式です。
10. 直会（なおらい）の儀
直会とは元に戻るという意味です。儀式後、施主が参列者に対してあいさつし、お神酒で乾杯し歓談します。

【上棟式（建前）】

上棟式は建前ともいい、建物の柱や梁が組みあがって棟木を上げる時に行われます。敷地の守護神に感謝し、家屋の棟を司る神に成就を願い行われます。また、上棟までの工事が進んだ事を神に感謝し、建物が無事に完成するよう願います。

上棟式は棟梁が仕切って行われます。地域や工務店によって違いもありますが、建物中央の棟木あるいは床の間にお酒、塩をお供えし、2拝2拍手1拝で礼拝し、その後、建物の四隅をお神酒と塩で清めます。そして参加者全員でお供えのお神酒で乾杯します。

時 大安・友引など吉日を選びます。

朝から柱・梁を建て上げ（建前）、棟木を乗せるとき（夕方頃）から）上棟式が行われます。

場所 上棟した建物の内部で行います。

参加者 施主とその家族、設計管理者・施工者、ほか工事関係者。

用意 式典に必要なものはお酒と塩ほか地鎮祭同様のお供え物です。

施主は工事が一区切りついた事を工事関係者に感謝しもてなしをします。一般的には昼食と休憩時の飲み物やお菓子、おつまみを用意します。また、上棟式が終わったあと引き上げるときに手土産（引き出物）を渡します。手土産は折り詰めが一般的です。

費用 ご祝儀を施主が職人一人ずつに直接渡します。棟梁1万円～二万円位、他3千円～5千円位をのし袋に入れて渡します。

【新築披露】

建物が無事に完成した事を神に感謝し、施主、建物の繁栄を祈願します。現在は社屋や学校などの大きな建物で「落成式」「竣工式」といって正式な形で行われる事はありますが、個人の住宅においてはあまり行われません。その代わりに一般的に行われるのが新築披露（新築祝い）です。完成した建物を親戚や知人にお披露目するお祝いです。

新築披露は特に習慣的なものではありませんが、たいていパーティー形式で、施主の考えで行います。親戚、近隣の人、工事関係者など数回に分けて行うこともあります。

